令和4年度　学校関係者評価

鈴鹿市立牧田小学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価 （○：成果，　●：課題，　◇：意見）	今後の改善点
学力向上	1　授業力向上（算数科の授業研究の実施） →・学力調査の結果分析から，学力の強み・弱みを探り，改善策を実施 ・校内授業研修に市教委の指導主事を定期的に招く，若手教員研修の積極的な活用を図り，授業力向上を図る。 2　基礎基本の確立（家庭学習の充実） →・「家庭教育の手引き」の周知し，家庭と協力して学力向上を図る。 ・学力調査やみえスタの結果分析から，弱み解消の宿題等を実施。 3　ICT機器の活用推進 →・市内の優れた実践に学び，一人一台端末の活用推進を図る。 （成果と課題）昨年比 ・児童アンケート：「学校の勉強がよくわかる」 →肯定的回答は，8割台と変わらず ・児童アンケート：「学習したことをきちんとノートにまとめている」 →肯定的回答は，昨年と比べ9割台から微減 ・児童アンケート：「家で宿題などの勉強を毎日している」 →肯定的回答は，昨年と比べ9割台から微減 ・児童アンケート：「授業中、自分の考えを伝えようとしている」 →肯定的回答が4年連続増加し，過去最高の約8割 ・みえスタディチェックの県平均との差 算数の総合結果は伸びており，資料や表の数値的な読み取りは得意。しかしその数値を応用した問題等に課題が残る	○個々の強みに着目した向上を願いたい。 ○指導主事を招き，授業力向上を図っていることを評価。 ◇ICTの活用は積極的に進めるべきだが，PCの持ち帰りは重く児童の負担が大きい。 ◇「勉強がよくわかる」「ノートにまとめる」「数値を応用した問題」等の課題解決が必要。特に国語力（読解力や作文力）を重視することが大切。例えば「親子読書タイム」等の取組も考えられる。 ◇ICT機器の普及には一長一短がある。豊富な情報を手に入れ易くなった半面，読む力，文字を書く力は低下していると思う。 ◇学力は読んだり書いたりする方が，より身につくのでは。ICT機器は大いに活用すべきだが，従来の読んで書く勉強方法は継続するべき。 ●読書が好きの項目が4年連続減少 　対策として，学校の図書室の利用回数や読書した本の記録等の統計を取る。休日に市の図書館を利用を奨励するなど。 ●児童アンケートの結果は自己評価であり，数パーセントの差にあまり意味はない。今後は様々な要因をクロス集計して，対象別に結果を学分析すべき。 ●低学年の時から基礎基本が完全に身につくような取組が必要。 ●ドリルや基本的な問題はできるが，応用問題や自分の意見を述べるのが不得意。，授業でいろいろな問題を解いたり，自分の意見を言えるようになってほしい。 ●出来ることを繰り返し行い，自信をつけることが大切。 ●端末の持ち帰りには理由があるか。登下校の時に重く，落としそうで不安。	①令和4年度に実施した，学力調査の分析結果から得られた，本校の学力の弱みに対する対策を実施していく。 　→ ②令和4年度に実施される学力調査の結果の分析を行い，学力の弱みの分析とともに，改善策についての検証を行っていく。 ③令和4年度も市教委の教職経験5年以下研修の積極的な活用を図り，授業力の向上を図っていく。 ④「家庭教育の手引き」について，保護者へ積極的に周知を図り，家庭と協力して，学力の向上を図る。 ⑤3月23日の協議を受けて学習ボランティアは中止するが，今後は「学校行事支援」や「総合学習などの安全支援」，「学校設備の補修や改善支援」等の様々なボランティアのついて協力を考えていく。 ⑥一人一台端末の活用について，他校の実践を学び，良いものについて，取り入れていく。 ⑦児童アンケートの中で，特に「授業で自分の考えを伝える」の項目に注目し，数値目標を45%とする。
生徒指導	1　基本的生活習慣の定着 ・地域と協働した「すいみんの日」の取組推進（毎月第2水曜と年間3回の強化週間設定） →児童アンケート及び児童理解会議において検証 ・携帯電話やSNSの利用について，トラブルを防ぐ学習を各学年で実施 →職員会議及び児童アンケート結果で検証 2　不登校児童の削減 ・不登校児童が安心して学ぶことができる場として，校内教育支援センターを正式に設置・運営。 ・SLSや特支COを中心に，1限目終了までに欠席理由の確認や登校促す家庭訪問を実施→30日以上の欠席児童数が減少しておらず，初期対応に課題がある。 （成果と課題） ・児童アンケート：「早寝早起きをしている」 →肯定的回答が減少し課題。 ・児童アンケート：「学校や社会のきまりを守っている」 →肯定的な回答が高い数値で推移（約9割以上）。 ・校内の生活指導事案は減少したが、その中の暴力行為の割合が多く課題。 ・30日以上の欠席児童数は、前年比で24名減少（4月～12月） ・校内教育支援センター（ほっとルーム）を開設。専任非常勤講師がつき，不登校児童が学ぶ場所となっている。現在のべ8名程度の利用。	○すいみんの日の取り組みは，児童も意識するので良い。 ○校内教育支援センターを開設し，不登校児童の支援に取り組んでいることは評価できる。ぜひ継続して不登校児童数を減少させてほしい。また，クラス（集団）に居づらい児童が，この場所で学び成長できるとよい。 ◇不登校児童は年々増加しているので，民間施設で学ぶ児童もいる為，密な連携が必要となっている。 ●「すいみんの日」の取組に関わらず，「早寝早起きをしている」の回答が減少している。学校の重点活動（すいみんの日）として子どもに浸透させる必要がある。 ●集団登校で，遅れてくる児童が散見されるので，集合時間の厳守を徹底する。 ●一般的には，早寝早起き朝ごはんが重視されるが，早く寝ることが重要なので，すいみんの日の取組はもっとアピールすべき。 ●携帯電話やSNSの利用については，児童は学校で学べるが，保護者は学ぶ機会がない。保護者を対象のセミナーが必要。 ●休日に，ゲーム機を操作しながら道を歩いている子を見かけた。危険な行為なので学校でも指導してほしい。	①スクールライフサポーター，スクールソーシャルワーカー，主任児童委員等と連携した不登校対策を進める。 ②「すいみんの日」の取組継続とともに，学校と学校運営協議会の協議の上，家庭でのスマホ，ゲームに対する対策を取る。 　→「すいみんの日の取組」（資料2） 　→　R4年から創徳中校区で「ノーメディアデー」の実施決定。「すいみんの日」のリニューアルを視野に検討。 ③PTAと協議の上，家庭教育学級等で，不登校，SNSの上手な使い方等について，保護者，児童向けに研修会をもつ。 　→　PTAと家庭教育学級について協議し，保護者，児童向けに研修会をもつ。 ④児童アンケートの中で，特に「早寝早起き」の項目に注目し，数値目標を80%とする。
人権教育	1　地域と連携した多文化共生教育の推進 ・各学年の学習テーマに沿った成果発表として牧田万博を継続し，地域の偉人「前川定五郎翁」の学習を含めた，国際理解教育を進めていく。 ・児童アンケートの中で，「文化の違う外国の人たちと分かり合う大切さの勉強」の項目に注目し，数値目標を90%とする。 →保護者・児童アンケート結果で検証 2　仲間づくりの推進 ・年間2回の人権レポート研修を実施 →全職員で課題も把握と保護者・児童アンケート結果で検証 （成果と課題） ・児童アンケート：「文化の異なる国の人たちを理解する取組を行っている」 →肯定的回答が約9割以上で推移。 ・児童アンケート：「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとする」 →肯定的回答が約9割以上ので推移。	○多様な人が学ぶ社会として，各々の文化を知ることが重要。多文化共生の取組は良い。 ○牧田小学校は，牧田万博，前川定五郎等，地域づくり等連携して成果を出している。又当校は外国につながりのある児童が多く，多文化共生教育が小学校時から体験でき有益。 ○不登校や欠席の多い児童に対しての個別ケアはとても大切。そのまま進めてほしい。 ◇校内でも簡単なポルトガル語やスペイン語が学べる機会があると良い。 ◇外国籍の保護者も積極的に巻き込んだ学校行事ができると良い。 ●すいみんの日の取組は，意識のあるなしで取り組み方が違う。早寝早起きの良い点をもっと伝えてほしい。 ●児童は，「自分や友だちを大切にし，いじめや差別をなくす」ことに肯定的だが，トラブル時に暴力行為が多い。トラブル時の望ましい対応を学び，実践力をつける必要がある。	①牧田万博を継続し，地域の偉人「前川定五郎翁」の学習を含めた，国際理解教育を進めていく。 ②児童アンケートで，特に「文化の違う外国の人たちと分かり合う大切さの勉強」の項目において，数値目標を90%とする。

働き方改革	1　時間外労働の削減 ・校内で，働き方改革について検討し，実践可能なもののから，随時改善を進める。 →　学校だより等で教職員の勤務時間(8:30～17:00)を保護者等に周知 　　留守番電話を（18:00～8:00）として設定・周知する 　　校時の見直しを行い，行事等を精選する ・月45時間以上の時間外労働をする教職員を0とする →勤務状況報告書で把握頼める （成果と課題） ・職員の総勤務時間縮減の意識は浸透し、勤務状況報告から規定の超過報告はなくなった。しかし、仕事の処理などで休日に出勤する事例はみられる。報告に上がらない飽和的な勤務状況は変わっていない。 ・長欠児童の多さ、虐待事案の危惧など今日的教育課題が少なくない中、全ての問題が学校に負わされており，本来の教育業務遂行が極めて難しい状況。この実態は払しょくされていない。	◇教員の働き方改革を進めるには，各家庭の意識改革が必要。社会の流れとしても，学校（教員）の働き方改革を進めるべき。 ◇教育課題（不登校，虐待，いじめ等）対応は，命に係わる事案に発展することがあるため早期対応が重要。時間外対応の発生時は，近日中に早退するか長期休業中に休みをとるなどの体制づくりが必要。 ◇教育関連の各種アプリケーションや規則の見直しがすすみ，教職員の働き方を少しでも改善するべき。 ●報告等事務量を減らす。教職員，ボランティアを増やし，サービス残業をなくす。少しでも教員志望の増加をのぞむ。 ●昨晩も21時近くまで職員室の電気がついていた。実際は数年前から何も変わっていないと思う。単純にやるべきもの，やらなくても良いものをもう一度見直して無駄を省くべき。 ●時間外勤務の仕事内容を分析し，それぞれの仕事をどうするのか考えるべき。その仕事をやめる，違う人が対応する，仕事の方法を変える，などして時間縮減を図るべき。	①校内で，働き方改革について検討し，実践できるものから，随時，改善を進めていく。 →　学校だより等で，教職員の勤務時間8:30～17:00を知らせる。 　　留守番電話を 18:00～8:00 とする。 　　校時の見直しをする。 　　行事等の精選を行う。 ②月45時間以上の時間外労働をする教職員を0とする。